

第二次霧島市総合計画(後期基本計画)施策評価シート

令和7年度

政策	4. はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)	SDGs																		
施策	2. 多様な学びを支援する社会教育の充実																			

施策で目指す姿

●体験活動等を通して、心身共にたくましい「きりしまっ子」を育成し、子どもたちが夢や目標を持てるような取組を推進します。 ●地域学校協働活動の推進や家庭・地域の教育力の向上により、地域ぐるみで青少年を育成する気運を醸成します。 ●市民の学習のための環境や内容の充実、成果の還元、情報の提供に努めます。 ●文化財に触れ、学ぶ機会を積極的に設けることで、郷土に誇りを持つ心の醸成や文化財の保存・活用を図り、貴重な遺産を後世に伝えます。

基本事業における成果・課題・改善策

1. 生きる力を育む体験・交流活動の充実	決算額	5,671千円
令和7年度の事業成果	令和7年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和8年度以降の改善策
●きりしまっ子立志育成事業(自然体験編)では、霧島の豊かな自然の中で、異年齢集団による宿泊体験活動を通して、郷土愛を醸成し自立性・協調性を育むことができた。 ●きりしまっ子立志育成事業(職業体験)では、森林環境譲与税を活用し、親子で木工体験をした。親子で一つの作品を作り上げることにより、家族の絆を深めることや、子どもの成長を感じるよい機会になった。	●事業集約の観点から、自然体験と職業体験を同時に開催するなどの検討が必要である。また、近年の夏季における異常高温の常態化に伴い、参加者の安全と事故防止の為に実施期間の見直しを行う必要がある。 ●令和7年度は大雨災害の為実施できなかった「科学体験in 第一工科大学」においては、毎年応募者が多く抽選となるため、できるだけ多くの希望者が参加できるよう、市内の高等教育機関と連携し、回数や会場の増加等を検討したい。	●職業体験については、自然体験と森林環境譲与税を活用した体験を組み合わせることで財源を確保し、活動内容の充実を図る。また、宿泊を伴わない体験活動とすることで参加者の負担を軽減し、安全の確保に努める。 ●科学体験については、第一工科大学に加え、鹿児島高専とも連携することで回数を増加し、より多くの希望者が参加できるようにする。
2. 地域ぐるみで子どもの成長を支える体制づくり	決算額	8,816千円
令和7年度の事業成果	令和7年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和8年度以降の改善策
●令和7年度から、市内小中学校全てに学校運営協議会を設置し、各学校で学校や地域の課題等について議論をスタートすることができた。また、年度初めにCS(コミュニティ・スクール)マイスターを招いて学校管理職や学校運営協議会委員向けの研修会を開催することで、関係者が設置目的や事業の必要性を認識することができた。 ●家庭教育支援においては、家庭教育学級への講師紹介や実践集を作成することで活動の周知広報を行った。	●学校評議員会の内容を引き続き行っている学校もあり、学校運営協議会の進め方については、今後更なる周知並びに指導が必要である。また、協議会の回数や委員数も検討する。 ●家庭教育学級では、例年同一の学習内容になりがちで担当主事が計画の作成に苦慮している。受講者の学習意欲が向上するよう組織全体としてのスキル向上を図る必要がある。	●学校運営協議会の進め方や協議内容については、霧島市内の学校で、先進的な実践を行っている学校に事例発表をしてもらったり、グループワーク等を通じて制度に関する理解を深めたりすることで、地域と学校の協働のあり方を検討していく。協議会の回数や委員数については、希望を元に対応する。 ●家庭教育主事等研修会において、小中学校の実践事例を発表したり、グループ協議を行ったりすることで情報を交流する場の提供を行う。
3. 多様な学びを支援する学習環境の充実	決算額	562,584千円
令和7年度の事業成果	令和7年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和8年度以降の改善策
●市民の多様な学びを支援するため、公民館定期講座88講座、公民館短期講座8講座を開設した。 ●公民館や社会教育施設の設備等の不具合箇所やの修繕・更新を行うことで、安心・安全な学習環境の確保に努めた。	●公民館定期講座の新規申込者の割合は、昨年度と変動はなく横ばいであった。今後も市民が学びに興味・関心を持ち受講希望者が増えるよう講座内容の充実や学習環境の維持に努めていく必要がある。 ●公民館や社会教育施設全般的に老朽化が進んでおり、これらの施設について、今後のあり方を検討していく必要がある。また同時に設備の修繕・更新についても計画的に行っていく必要がある。	●市民の学びのニーズに応えられるよう、現状分析を十分に行い、幅広い年代層・学習ニーズに対応した講座の充実を努める。 ●施設の老朽化については、優先度を意識し限られた予算の中で効果的に対応を行うことで、学習環境を維持する。
4. 文化財の保存・継承と活用	決算額	45,000千円
令和7年度の事業成果	令和7年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和8年度以降の改善策
●戦後80年をテーマとした企画展の開催や市政20周年を記念した啓発事業などを実施し、市民の文化財に対する関心を高め、郷土への愛着と守り継ぐという意識の醸成を図った。 ●国宝・国指定史跡「霧島神宮」への防災設備整備事業への支援、県指定「旧田中家別邸」の土間壁の修繕を行うなど、文化財の保護を行った。	●指定史跡「大隅正八幡宮境内及び社家跡」内の市指定「宮坂貝塚」が令和7年8月の大雨災害により被害箇所が拡大した。 ●霧島市公共施設管理計画に基づき、5つの歴史民俗資料館等施設の集約について検討する。	●市民が興味を持ち郷土館等に来館しなくなる企画展や啓発事業、歴史講座を開催する。 ●SNSを活用して事業の紹介を行うなど、広く情報発信に努める。 ●豪雨で被災した市指定「宮坂貝塚」について、専門家等の指導を受けながら復旧の方向性を決定する。 ●5つの歴史民俗資料館等施設の集約については、場所や時期、集約に係る予算等、具体的に進めていく。

施策の進捗状況

KPI (重要業績評価指数)	測定方法	実績値	進捗率	実績値の検証
		目標値	方向性	
63. 住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	文部科学省「全国学力・学習状況調査」(児童・生徒質問紙調査)	32.2%	△71.59%	数値を測定する調査が変更になり、文部科学省「全国学力・学習状況調査」の数値を実績値としたが、毎年少しずつ問い方が変化している。
		62.4%	↑	
64. 学習している市民の割合	市民意識調査	%		未把握
		53.1%	↑	
65. 公民館定期講座申込者に占める新規申込者の割合	市公民館定期講座の新規申込者数／申込者総数(N-1)	77%	100	令和7年度は、前年度と比べると進捗率は横ばいとなっている。学びに興味・関心・意欲を持った方の割合に変動はないものと考えられる。
		77%	↑	
66. 文化財保存・継承活動の実践者と参加者の人数	市郷土館入館者数と文化財保存・継承活動の参加者数の合計(N-1)	8,023人	100.84%	戦後80年をテーマとした企画展の開催や市政20周年を記念した啓発活動の実施により郷土館等の見学者数が増加した。
		8,000人	↑	

改善策を踏まえた施策としての取組方針
●児童・生徒が、学校以外の場所で、様々な体験を通して自立性や協調性を身に付けることは、将来、社会を生きぬくための資質・能力の育成に繋がる。そのためには、発達段階に応じた望ましい体験の在り方や異年齢集団における効果的な活動を調査・研究していく。 ●学校運営協議会の充実を図るためには、地域と連携した「地域学校協働活動」との一体的推進が効果的である。地域への周知や情報提供を行うことで、学校を核としながら地域活性にも繋げていく。 ●市民の多様な学びのニーズに対応した講座内容の充実、SNS等を活用した積極的な学習情報の周知を行うとともに、施設の修繕や設備の更新等による学習環境の整備を行い、市民の学びの支援を図る。 ●施設や収蔵品の適切な整備と保管、また、啓発事業や情報発信による継承活動を行うことで、文化財の保存と活用及び継承を図る。

施策幹事課	関係課
教育部社会教育課	商工観光部商工観光施設課 / 教育部国分図書館 / 教育部メディアセンター